



■■ 令和元年度第1回拠点運営委員会開催 ■■

～ 共同利用研究採択課題決定 ～

2019年7月8日(月)、令和元年度の第1回拠点運営委員会が開催されました。この委員会は、CEReSの共同利用・共同研究に関して共同利用・共同研究に関する重要事項や、共同利用研究課題の公募及び採択に関する事項等を審議するため、毎年、開催されているものです。

工学研究院の黒岩眞吾教授が委員長を務め、第3期における拠点中間評価結果とその対応や、第4期に向けてのセンターの方向性について意見交換を行うとともに、本年度の共同利用・共同研究として国内分51件(プログラム研究24件、一般研究17件、研究会10件)と国際分6件を採択することを決定しました。なお、第4期に向けての対応として、本年度から新たに「プログラム研究 研究会」の枠組みを設け、CEReS教員が主催して国内コミュニティとともにリモートセンシングに関する重要なテーマを議論する場としての研究会を実施することとしました。研究会の名称、代表者名、担当教員は下記のようになっています。

1. 衛星地球観測シナリオ研究会：名古屋大学 高橋暢宏、千葉大学 本多嘉明
2. ひまわり8/9号の陸域利用に関する研究会：高知大学 松岡真如、千葉大学 市井和仁
3. マイクロ波リモートセンシング研究会：千葉大学 ヨサファット
4. スマート農業のためのリモートセンシング技術に関する研究会：千葉大学 近藤昭彦
5. (FutureEarth) 課題解決型研究を推進するための超学際のあるり方に関する研究会 ～診断から治療へ～：近藤昭彦

各研究会についてのお問合せは、各 CEReS 教員までお願いいたします。採択課題一覧はホームページ (<http://www.cr.chiba-u.jp/Documents/Koubo/collaborativeresults-2019.pdf>) をご覧ください。

(市井和仁、久世宏明)

■■■■■ 施設見学の様子 ■■■■■



小型衛星用アンテナ



観測用小型ヘリ



国際地上リモートセンシング観測ネットワーク；SKYNET システム（工学系総合研究棟 1 屋上にて）



大気データ取得ライダーシステムについて意見を交わす委員と久世センター長（右端）

環境研究総合推進費 2-1901 プロジェクトのキックオフ会合の開催報告

2019年7月2日に環境再生保全機構の東京事務所・大会議室にて、環境研究総合推進費2-1901「国際観測網への発展を可能とするGOSAT-2の微小粒子状物質及び黒色炭素量推定データの評価手法の開発」プロジェクト（研究代表者：入江仁士、2019-2021年度）のキックオフ会合を開催致しました。本プロジェクトの目的は、GOSAT-2の微小粒子状物質（PM2.5）及び黒色炭素（BC）量推定データの評価手法を開発することです。主に、千葉大学、宇宙航空研究開発機構（JAXA）、国立環境研究所（NIES）が連携して研究を進めていきます（図）。キックオフ会合では、研究代表者の入江より全体概要の説明、その後、各サブテーマの代表者から研究計画と準備状況の説明、最後に全体討論がなされました。プログラムオフィサーやアドバイザーの方々などを中心に、予定した時間が足りないほど、大変活発で有意義な議論がなされました。我が国の優位性を生かした「GOSATシリーズ」と「エアロゾルのリモートセンシング」を掛け合わせた最先端の試みとして、今後の成果を楽しみにしていただけましたら幸いです。

（入江仁士）

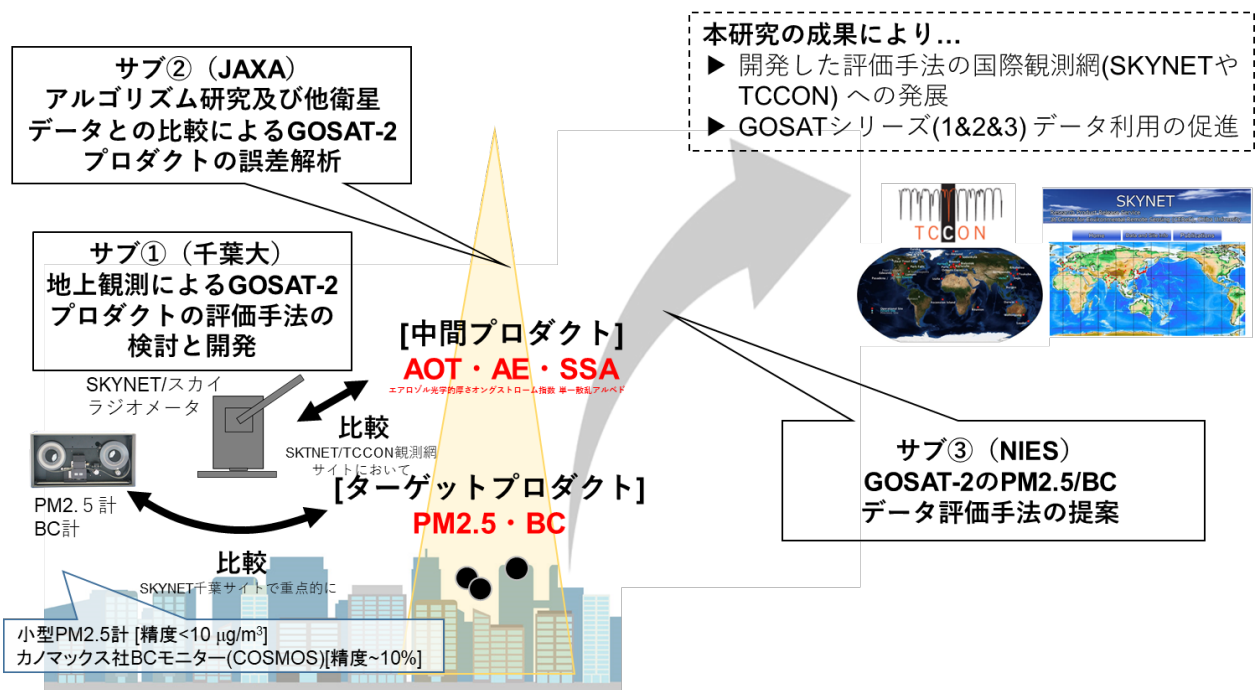


図 本推進費プロジェクトのポンチ絵

■■■ IGARSS2019 と GRSS サマースクール報告 ■■■

2019年7月28日(日)から8月2日(金)まで、パシフィコ横浜でIGARSS2019が開催されました。IGARSS (International Geoscience and Remote Sensing Symposium)は、Landsat 衛星の打ち上げ(1972年)に先立つ1969年にWashington, D.C.で開催されたInternational Geoscience Electronics Symposium にそのルーツをもつ伝統のある国際会議で、今回の第39回の会議は米国電気電子学会(IEEE)と日本学術会議の共同主催で開催されました。東京大学工学研究院の廣瀬明教授がGeneral Chairを務め、CEReSからは、久世センター長がStudent ActivityのCo-chair、ヨサファット教授がInternational LiaisonのChairの任に当たりました。

会議に先立って、7月23日(火)から26日(金)まで、東京工業大学大岡山キャンパスにおいて2019 Geoscience and Remote Sensing Summer School (GRSS Summer School) がStudent Activityの一環として開催され、13か国から51名の参加がありました。このサマースクールは、共同利用研究会としてCEReSも共催する形で実施されました。

IGARSS2019の会議には62か国から2600人を超える参加者があって、マイクロ波や光学センサによる様々な地球観測についての講演約3100件が行われ、また、NASAやJAXA等、多くの展示も行われました。29日午前のプレナリーセッションに引き続いて行われた開会式には天皇皇后両陛下のほか、平井科学技術担当大臣、黒岩神奈川県知事、林横浜市長も出席・挨拶され、1000人の大ホールが満席になる華やかさでした。来年のIGARSSは7月に米国ハワイで開催される予定です。

(久世宏明、ヨサファット)



東工大で開催された GRSS サマースクール



IGARSS2019 プレナリーセッション

大学及び研究者向けビジネスプラン研修プログラム (NEDO TCP2019)

2019年7月23日に千葉大学アカデミックリンクセンターにて、ベンチャー支援事業の一環として、NEDO(New Energy and Industrial Technology Development Organization ; 国立研究開発法人新エネルギー・産業技術開発機構)の大学及び研究者向けビジネスプラン研修プログラム (NEDO TCP2019)の説明会を開催しました。NEDO Technology Commercialization Program (TCP)は、技術を基に起業して事業を大きく拡大させたいと考えている起業家、起業家予備群、起業意識のある研究者等を支援するためのプログラムです。今回、2018年度のNEDO TCPのファイナリストである当センターのヨサファット教授が「Earth on Your Finger」という事業計画を講演しました。この講演では、リモートセンシング分野における事業を計画する際の注意事項と準備項目を紹介しました。今後、日本国内により多くのリモートセンシング分野の起業家が生まれるよう期待しています。



図 NEDO TCP 2019 に講演したヨサファット教授